

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

オンデマンド・スクーリングの 学びから得たもの

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 内田 一美

新型コロナウイルスの影響により、通信教育部では現在会場スクーリングをおこなうことができず、全てオンデマンド・スクーリングに切り替えて開講していると伺いました。在学生の皆さんは例年よりも厳しい状況の中、日々学業に努力されていらっしゃるのであろうと思います。本当に一日も早い事態の収束を願うばかりです。

私は在学中、オンデマンド・スクーリングを中心に学習を進めておりました。そういう理由もあり、「会場スクーリングが困難な今、その経験を『With』へ寄稿して欲しい」と今般依頼をいただきました。自分の話がどの程度お役に立つのかはわかりませんが、苦境にある皆さんへのささやかなエールにでもなればと思い書かせていただくことにいたします。

学ぶことを志した理由

私は2018年4月に通信教育部社会福祉学科へ、3年次編入で入学しました。きっかけは自らの仕事における行き詰まりです。私は病院で手話通訳者をしているのですが、この分野はまだ職業として十分に確立されているとは言い難く、現場にあっては何を“抛りどころ”とすべきか迷うことが少なくありません。こうした迷いの原因を追究した結果、自分には「多角的に物事をとらえ、状況を判断する力が不足している」と気がつきました。そして、その「力」を得るには「学ぶこと」と「己を知ること」が必要であると考え、再び学び直す機会を得たいと大学の門をたたきました。

最初の決意

大学での学習にあたっては当初から心に決めていることがありました。それは、全科目をスクーリングを受講して履修するということです。自分が大学入学を志した理由が、学び、己を知り、力を得たいと希望したことにあり、そのためには教科書等から知識を得るだけではなく、多くの先生方の見識にも触れ、知見を広げる必要があると考えたからです。私は札幌在住のため、結果的には大半がオンデマンド・スクーリングを受講する私たちにはなりましたが、それでも先生方がそれぞれの経験に基づきご教授くださる内容には、文献のみでは得難い「息遣い」を感じる事ができたと思っています。また、会場とオンデマンドのいずれのスクーリングでもそうですが、先生方から聞く言葉は、一人地道に学習を進めなくてはいけない通信教育課程にあっては、励ましを与えてくれるエールでもあったと感じています。

オンデマンド・スクーリングにあたって心掛けたこと

オンデマンド・スクーリングを中心に学びを進めるうえで特に心掛けたのは、計画的且つ丁寧に受講を進めるということです。オンデマンド・スクーリングは自宅等自分に慣れ親しんだ場所で、自分のみが受講します。また、通信教育部に在籍する人の多くは仕事の傍ら学業に励む人が多いと思いますが、仕事を終え、いつもは休息を取るための空間で勤務時間以外に改めて集中する時間を作るということは非常に骨の折れるものです。とすると、スクーリングをぞんざいに扱ってしまう可能性もあります。私も仕事を終え受講した時は、疲れから眠ってしまったことがあります。よほど意識して丁寧に取り組まなくてはいただけませんでした。有意義なスクーリング学習にするためには、集中できるコマ数で学習を進めたり、自分の

集中できる時間帯に受講したりと工夫が必要になると思います。また、オンデマンド・スクーリングは視聴可能な期間が決まっていますので、開講期間内に受講を終えることができるよう計画的に学習を進めることも大切になります。

加えてもう一つオンデマンド・スクーリングに関して心がけていたことをいえば、時折初心に立ち返るということと、感動する機会を持つということです。会場スクーリングとオンデマンド・スクーリングの大きな違いの一つは、そこに学友がいるかどうかだと思います。会場スクーリングでは学友と情報交換をしたり励まし合ったりと、心を触れ合わせることから学習に対する意欲を上げていくこともできます。しかし、オンデマンド・スクーリングではなかなかそれができません。そういう意味では、オンデマンド・スクーリングは“孤独な闘い”であるともいえます。学習に対するモチベーションの低下から効果的な学習ができない時もでてくるかもしれません。そういう時は初心に立ち返ること、そして感動できる何かに接することをお勧めします。私は、学びが必要だと考えるきっかけをくれた利用者を思い出すことで奮い立ち、ラグビーワールドカップから感動をもらっていました。内容は何でも構わないと思いますが、自分の心を良い意味で刺激する何かを備えておくのがよいのではないかと思います。

大学を卒業してみても

今春、私は大学を卒業し、おかげさまで社会福祉士にもなることができました。卒業してみても思うのは、「卒業してからが本当の学びのスタートである」ということです。冒頭で述べた通り、私は「多角的に物事をとらえ、状況を判断する力」を得たいと大学に入学しました。入学前は大学で学ぶことで、その「力」を手に入れることができるのでは、と考えていました。しかし、大学での学びは「力を得るためのもの」ではなく、「その

『力』を得るため生涯弛まぬ努力を続けていくという、その『覚悟』を育むためのもの」であったと今は思います。そして、このことに気づかせてくれたのも、やはりオンデマンドを含むスクーリングであったと感じています。

終わりに

現在、在学生の皆さんは「早く卒業したい」「早く国家試験に合格したい」と思いながら必死に勉学を進められているのではないのでしょうか。私も同じでした。しかし、その苦しさは今自分の財産となり、少しだけ自分を強くしてくれていると感じています。皆さんが今経験している大変さも、いつかそれぞれの中で大きな財産となってくれるのではないのでしょうか。いつの日かそうなることを願い、皆さんの健闘を心から祈っています。

